

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	美容室（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置も解除され3～4月は客の動きが活発となった。ゴールデンウィーク前となり多忙となっている。
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・県内では新型コロナウイルス新規感染者数が高止まりしたままではあるが、週末や日中を中心に人の往来は徐々に回復している。リベンジ消費といえる状況ではないが、ようやく長いトンネルを抜け出たと思いたい。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしている感があるものの、県内観光客が増加し、県外観光客の代替となっている。歓送迎会もそこそこ戻ってきた。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しておらず来客数は少ないままであるが、インターネットによる母の日の予約が例年になく早くから入ってきている。原油価格高騰と海外の新型コロナウイルスの影響で輸入カーネーションの入荷量が減少しており、母の日近くには売り切れが予想される。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・大規模の物産催事が好調に推移している。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数は前年を割り込んでいるが、売上は上回っている。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・4月は衣料品店にとっては、春から初夏にかけての実働時期になっており、インフレ傾向のなか、単価アップもあるものの、客は購買の負担を感じていない印象であり、景気は良くなっていく。
	○	衣料品専門店（営業責任者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、人の往来と来客は増加傾向にある。しかし、新型コロナウイルス発生前の水準には至っておらず、まん延防止等重点措置の延長によるダメージが残っていると感じる。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてきたことにあわせ、来客数も少しずつ増加している。また、ビジネスや観光客も少しではあるが増加傾向にあると感じる。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍が落ち着きつつあり、急激ではないが、来客数も増加傾向にある。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置等の規制が緩む中で来客数が回復している。
	○	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・人の動きが良くなっている。
	○	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・先週より週間受注が増加している。2019年比においても100%超えている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・遍路の仕事が少しずつ増加している。夜の街の状況も新型コロナウイルス感染が拡大していたピーク時と比較すると人が戻ってきている。
	○	観光遊園地（職員）	お客様の様子	・観光地周辺の人の往来が以前より多くなっている。
	□	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数、客単価に大きな変化はみられない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・各分野における値上げ情報がメーカーから発信され、前倒し需要により、売上は好調に推移している。
	□	コンビニ（商品担当）	それ以外	・コロナ禍に対する規制が緩和され、人流が増えつつあるが、電気、燃料、原材料の価格高騰もあり店舗運営に大きく影響している。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・コロナ禍の状況に一進一退を繰り返しており、新規感染者数が減少していない現状において少なくとも上向きではない。
	□	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・家電についても物価の上昇により値上げ商品はあるが、売上への影響はみられない。逆に部品不足による入荷未定商品が増えチャンスロスが出始めている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の受注状況は前年並みの推移であるが、登録台数は生産台数の遅れにより、前年比の8割程度で推移している。

	□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・当社の業績はメーカーの生産状況に大きく影響を受けるため、生産状況が改善すれば好転する。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・現状においては前年と比べ変わらない。昨年同様まん延防止等重点措置後は昼夜とも人の往来は少ない。
	□	通信会社(営業部長)	販売量の動き	・4月に入り販売量も落ち着き始め、落ち込む様子が見受けられず堅調である。
	□	通信会社(社員)	販売量の動き	・サービスの訪問販売営業の獲得件数については、数か月前と同等で推移している。
	□	美容室(経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスに対する考え方に個人差はあるが、落ち着きつつある。
	▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症及びウクライナ情勢等の不安定要素があり客の消費活動が抑えられているなか、ガソリン価格の高騰と生活用品の値上げも重なり消費活動が更に消極的に向かっているように感じる。レジャー産業が中心ということもあり厳しい状況が続いている。
	▲	商店街(代表者)	単価の動き	・新型コロナウイルス及びウクライナ情勢と時代が変革する事案が継続しているなか、生活用品とガソリン価格の高騰、特に電力料金は営業活動にも大きく影響する。零細企業は節電可能であるが大型店や量販店は厳しい状況になる。
	▲	一般小売店〔書籍〕(営業担当)	販売量の動き	・教科書の外商売上がマイナスとなっている。高校や大学においては生徒数が減少しており、売上の減少につながった。
	▲	スーパー(人事)	それ以外	・商品の値上げが増加しているなか、単価自体は上昇基調にある。それにより点数は前年を下回る要素が多く、来客数については、コロナ禍以降、前年を上回るということ自体が難しく、総合的に見た売上はやや下落している。
	▲	スーパー(財務担当)	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、外食に戻りつつある。
	▲	スーパー(統括担当)	それ以外	・需要のある商品が変わってきている。具体的には、菓子、果物関係のし好品が売れなくなってきており節約が始まっている。
	▲	コンビニ(店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者が一向に減少傾向にならない影響もあるのか、来客数は回復していない。
	▲	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・4月に入り新型コロナウイルスの感染再拡大により、来客数が減少した。
	▲	家電量販店(店員)	販売量の動き	・各部門ともに販売数減少がみられる。
	▲	乗用車販売業(営業担当)	販売量の動き	・半導体不足と法規対応により、自動車の生産調整があり、発注できず厳しい。
	▲	競輪競馬(マネージャー)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染の勢いがとどまることなく、新規感染者数が高止まりで推移し、感染力の高い株への変異も頻繁に続いている。このため、娯楽遊行者の人も控えめな状況であり、ネット利用の客が増加傾向にあることから来客数は低調である。
	▲	設計事務所(所長)	それ以外	・飲食、金融関係者の話として、依然として飲食店には客が戻っておらず、限界が近づいている。
	×	*	*	*
企業 動向 関連 (四国)	◎	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前年末から小売店の店頭販売が活発になり、年明け以降も順調に推移してきた。こうしたなかで、昨秋以来、原材料である綿糸価格が1.5倍～2倍近くに高騰し、その他染色加工賃等も値上げとなったため、4月1日から小売価格を15～20%値上げするとしたことから、3月はその仮需要で注文が大幅に増加した。4月については、商品価格が上昇したが、街に人出が増えた関係か、小売店からの発注が活発である。
	○	建設業(経営者)	競争相手の様子	・前々年来、公共事業の受発注量が堅調に推移しており、本業は悪くなかった。景況感を低下させていたのは、新型コロナウイルス感染症拡大及びその対応策としての自粛や規制、そして精神的な閉塞感であった。それがここに至って、コロナ慣れや重症化リスク低下により、業界内並びに公私とも活動が活性化している。研修、親睦、営業、業界・経済団体やボランティア活動などの活動が再開されることによるプラス効果が生まれてきている。

	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事はないが、民間工事を2件受注。
	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数は減少していないが、世間の雰囲気明らかに変わり好ましい状況。
	○	通信業（総務担当）	それ以外	・まん延防止等重点措置の解除に伴い、社外イベント等も新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら再開しつつある。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、本県で生産されていないじゃが芋、玉ねぎ等は作況不良から例年と比べ高値推移しているが、本県で生産の多い果菜類は、低調な荷動きが続いている。コロナ禍の規制が解除されたゴールデンウィーク前の販売は、前年よりは少し荷動きがよいが、新型コロナウイルス発生前との比較では、厳しい状況が続いている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は回復傾向にあるものの、資材価格、特に主要材料のスクラップ価格の高騰が続いており、採算面は悪化傾向。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・先進国を中心としたワクチン接種の進展により、経済活動が再開され、景気は回復基調が続いているものの、世界的な半導体不足による調達環境の悪化、原材料価格の高騰に加え、ウクライナ問題や中国におけるロックダウンなど、足元では先行き不透明感が深まっている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・バイオマス発電の引き合いが減少している。
	□	輸送業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・燃料油価格の高騰が長期化するなか、運賃料金値上げに向けた動きが活発化している。また取引先からも運賃料金の値上げ要請の動きが顕著になりつつある。
	□	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・国内においての出荷数量は低水準のままではあるが、海外への出荷量については東南アジア向けに新規輸送があり増加傾向である。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注価格や販売価格の動き	・新型コロナウイルス及びウクライナ情勢の影響を受け原料価格の上昇が止まらない。販売価格改定交渉を行っているが、原料価格上昇の伸びが早すぎて対応が追いつかない。今後原料の供給も含め不安な状態。
	▲	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・4月以降受注量が鈍化。
	▲	金融業（副支店長）	受注価格や販売価格の動き	・製造業において原材料の高騰を受けた仕入価格の上昇を販売価格に十分転嫁しきれていない。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・ウクライナ情勢により物価が高騰し経費がかさんでいるが、売上は伸びていない。
	×	化学工業（所長）	それ以外	・ウクライナ情勢による悪影響がますます拡大している。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・当県内においても、ビジネスプロセスアウトソーシングが増加しており、オペレーターの需要が増加している。
	○	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況は高止まりではあるものの、市場は感染回避行動を徹底しながら規制緩和の傾向。これまで人員体制を抑えていた公共施設、飲食店、宿泊施設などゴールデンウィークに向け求人確保に奔走する現状である。県下宿泊予約はどれも満室となるなど、一気に景気は回復している兆しがうかがえる。
	○	職業安定所（求人開発）	それ以外	・感染者は高止まりしているが、3回目のワクチン接種が進み、これまで控えられてきた、宿泊、飲食、サービス、娯楽業などに回復の兆しがみえる。
	○	学校 [大学]（就職担当）	求人数の動き	・県内の有効求人倍率も上昇傾向であり、求人数も上昇している。
	□	*	*	*
	▲	求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・当県では、4月以降の感染拡大を受け、経済の停滞が続いている。飲食、宿泊業界においては、3月に1度回復傾向にあったものの感染拡大により宴会、宿泊の自粛、キャンセルが相次ぎ景気は停滞している。
	▲	新聞社 [求人広告]（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスに加えて、各種原材料の価格高騰など、一般企業にとっては好材料がない。
	×	—	—	—